

「伝え合う」「聴き合う」西初中の授業

西初石中学校では、「生徒と生徒」「生徒と教員」が自分の考えを「表現し合う」授業を行っています。

表現し合えるということは、「主体的な学び」の一つであると考えています。「表現し合う」ために「小グループでの学習スタイル」を取り入れています。

どうしたら、小グループでの学習が充実するのか。本当にそれで学びが深まっていくのか。研究主任の平大樹教諭を中心にして、全職員で取り組んでいきます。

西初石中の日々の授業の様子を紹介します。

私（校長）は、1日1時間は、生徒とともに授業を受けるようにしています。私は文系（社会科）なので、苦手な理数系の授業に参加するのが好きです。分からなかったことが、分かるようになるのが楽しいです。

皆様に、本校職員の奮闘が伝われば、幸いです。



【山本明幸 3-3担任 社会科】

2年生の授業（地理）の様子です。「いろいろな見方で都道府県を探ろう」という単元です。4人のグループで、「都道府県のゆるキャラをデザインする」という学習課題に取り組みました。地形・産業・人口などを地図帳や資料集等で調べ、それを「ゆるキャラ」にしました。左の写真は、資料の読み取りに助言しているところ（上）と、発言をまとめているところ（下）です。生徒は資料から読み取ったことを伝えるために「ゆるキャラ」づくりに一生懸命でした。活気ある楽しい授業です。【校長】



【金丸大貴 1-4担任 数学科】

1年生の数学「正の数・負の数の計算」の授業の様子です。「正の数・負の数の計算の仕方はどうすればよいのか。」という学習課題でした。上の写真は、4人のグループになって、今日の授業のまとめを確かめる練習問題に取り組んでいるところです。中学生になって初めて「負の数」を学びます。ちょっと頭が混乱しがちです。生徒の学習状況に合わせて個別の指導を行っています。計算を数式だけでなく、言葉にして表現させて、理解を確かなものにする工夫があります。【校長】

【飯塚紗季 3年副担任 社会科】

3年生の社会科（歴史）の授業です。明治新政府の国づくりの方針をとらえる単元です。「五箇條の御誓文」を読み取ることでその方針を考えます。4人組のグループで「五箇條の御誓文」を現代語訳していきます。難しい言葉が多いのですが、助言を与えながらイメージが湧くように言葉にさせました。先生の言葉が少なく、その分、生徒同士の意見交換が多く見られました。学級全体へ発表する場面では、発言者に注目させ、学級全員で認め合い、共有させる指導が徹底されています。【校長】



(一言メモ) 「新しい学習指導要領について」

H29. 3 改訂。今年は「移行期間」令和3年完全実施。(中学校)
キーワード: 「主体的」「対話的」「深い学び」

本校での取組は「対話的」な授業から「主体的」で「深い学び」を目指す。ということになります。